

ハイパーフレッシュ HyperFresh

業務用消臭剤

**ウイルス類、細菌類を瞬時に
除菌、不活性化させます！**

ハイパーフレッシュは食品添加物として使用される塩素類をアルカリ水溶液中に安定させ、更にpHを弱酸性～中性に調整した除菌消臭材です。

強力な除菌消臭効果を持ち、衛生環境をよりよく進歩させる画期的な製品です。

アルコール系除菌剤では、除菌の難しいウイルスに対しても効果的に除菌することが出来ます。



病院でも



ペットショップでも

食品添加物

殺菌料製剤

成分

次亜塩素酸ナトリウム

安定化剤



500ml

●お問い合わせ先

過ごしやすい環境づくり

発売元 有限会社エスエスピー

TEL 03-5921-2992

FAX 03-5921-2993 / mail info@ss-p.jp

〒175-0083 東京都板橋区徳丸4-14-18-104

営業時間 9:30~17:30

<http://www.ss-p.jp/>

製造元 株式会社三協堂 大阪市北区天満3-6-3

こちらの商品はアマゾンからでも
購入することができます。

TEL・FAX・E-mailでの問い合わせも可

amazonで買う ロープライス **¥2,460**



4 580493 980011

◀◀ 携帯で読み取ってAmazonへGO!!

Hyper Fresh

ハイパーフレッシュ

製品概要

- 性状：無色無臭 ● PH：6～7 ● 比重：1.00(15℃)
- 溶解性：水に可溶 ● 使用基準：なし
- 食品への表示：加工助剤（その成分による影響を当該食品に及ぼさないもの）とみなされるもので表示は不要です。
- 保管方法：直射日光を避け冷暗所に保管して下さい。一度開封したものは密閉して、なるべく早く使用して下さい。
- 品質保証期間：製造日より6ヶ月
- 製品は 10ℓ と 20ℓ でご用意しております。



18,000円
(送料・税別)

24,000円
(送料・税別)

除菌検査データ

Japan Food Research Laboratories 試験報告書 第 12020970001-01 号 2012年(平成24年)05月10日

依頼者 株式会社 三協堂
 検体 "ナロミン30 (食品添加物殺菌料製剤)"
 表題 ウイルス不活化試験

試験目的
 検体のネコカリシウイルスに対する不活化試験を行う。

試験概要
 検体原液及び検体希釈液にネコカリシウイルスのウイルス懸濁液を添加、混合し、作用液とした。並列で作用させ、1、2及び10分後に作用液のウイルス感染性を測定した。また、あらかじめ予備試験を行い、ウイルス感染性の測定方法について検討した。
 なお、ネコカリシウイルスは、感染培養が不可能なノコウイルスの代替ウイルスとして広く使用されている。

試験結果
 1) 予備試験
 細胞培養培地で作用液を100倍に希釈することにより、検体の影響を受けずにウイルス感染性が測定できることを確認した。

2) ウイルス感染性の測定
 作用液のウイルス感染性測定結果

試験ウイルス	対象	濃度	log TCID ₅₀ /mL ¹⁾			
			開始時	2分後	5分後	10分後
ネコカリシウイルス ²⁾	検体	原液	7.3	<2.5	<2.5	<2.5
		5倍希釈液	7.3	<2.5	<2.5	<2.5
		10倍希釈液	7.3	<2.5	<2.5	<2.5
	対照	—	7.3	***	***	0.2

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量
 *1 作用液1 mL当たりのTCID₅₀の対数値
 *2 ノコウイルスの代替ウイルス
 開始時: 作用開始直後の対照のTCID₅₀を測定し、開始時とした。
 ウイルス懸濁液: 精製水で10倍に希釈したもの
 対照: 精製水
 作用液量: 50μL
 ***: 実施せず
 <2.5: 検出せず

日本食品分析センター

Japan Food Research Laboratories 試験報告書 第 12020420001-01 号 2012年(平成24年)07月31日

依頼者 株式会社 三協堂
 検体 ナロミン30
 表題 雑マウスを用いる急性経口毒性試験

試験方法
 検体試料を用量として5000、2000、1000及び300 mg/kgを含有する試験群並びに対照群として注射用水を含有する対照群を設定し、各群につきそれぞれ4匹を用いた。
 投与前に約4時間試験動物を絶食させた。体重を測定した後、試験群には試験液、対照群には注射用水をそれぞれ1に準じた投与容量で胃ポンプを用いて強制経口投与した。
 観察期間は14日間とし、投与前は観察、翌日からは1日4回観察を行った。投与前7及び14日に体重を測定し、一試配製物の半数分法により有害量準5%で統計学的検定を行った。観察期間終了時に動物すべてを剖検した。

表-1 群設定

検体試料用量 (mg/kg)	試験液濃度 (mg/mL)	投与前量 (mL/kg)
5000	250	20
2000	100	20
1000	50	20
300	15	20
0*	0*	20

* 対照群(注射用水を投与)

試験結果
 1) 死亡例
 いずれの投与前においても、観察期間中に死亡例は認められなかった。
 2) 一般状態
 いずれの投与前においても、観察期間中に異常は見られなかった。
 3) 体重変化(表-2)
 投与前7及び14日の体重測定において、各群の体重変化には見られなかった。
 4) 剖検所見
 観察期間終了時の剖検では、すべての試験動物に異常は見られなかった。

結論
 検体について、雑マウスを用いた急性経口毒性試験を実施した。
 検体を5000 mg/kgを上限として2000、1000及び300 mg/kgの用量で単回経口投与した結果、観察期間中に異常及び死亡例は認められなかった。したがって、検体のマウスにおける単回経口投与前による1000倍は、総じて5000 mg/kg以上であるものと考えられた。

日本食品分析センター

使用上の注意

- 本剤は絶対に飲まないで下さい。万一誤飲した場合はコップ一杯の水か牛乳を飲み、ただちに医師の診断を受けて下さい。
- 皮ふに着いた場合は流水で十分に洗い流して下さい。異常がある場合は医師の診断を受けて下さい。
- 目に入った場合は大量の流水で5分以上洗い流し、医師の診断を受けて下さい。
- 台所洗剤や酸性物質が混入しますと、塩素ガスが発生する危険性があり危険です。